



朝焼けの池塘に映る燧ヶ岳

「これまでにない!」「命を守る行動を!」など気候変動が騒がれるのなか、昔から変わらない日の出前の静かなひと時に心が癒されました。皆さんの周りの変わるもの、変わらないものは何ですか? (広報委員 酒井義明)

### 群馬県環境アドバイザーの登録状況 (2023年10月20日現在)

第12期(登録期間:2021年4月1日~2024年3月31日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計360名です。自然環境部会145名、温暖化・エネルギー部会117名、ごみ部会91名、広報委員会34名が登録し活動されています。

### 群馬県環境情報サイトのURLが変わりました 2023/10/1~



<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、  
<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501458.html>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。  
<http://www.gccca.jp/volunteer/>

### 目次

- P2 令和5年度店頭啓発活動実施します
- P3 群馬県環境アドバイザー連絡協議会の活動について
- P4 赤城山地熱試掘現場見学会 報告
- P5 自然環境部会の課題について、ごみ収集の有料化
- P6 ラジオ番組「みんなでSDGs会議~環境編~」を放送します
- P7 9月3日開催温暖化・エネルギー部会「ゲームから仲間づくりへ」事業感想
- P8 みどり市で「カッコソウ」の保全活動を実施

# 令和5年度店頭啓発活動実施します

## (環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会)

群馬県 環境森林部  
環境政策課 環境政策係

群馬県では、消費者団体・事業者・行政（県及び全市町村）で組織する「群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会」にて、レジ袋の削減を始めとするプラスチックごみの削減や食品ロスの削減等を通じた低炭素・循環型社会の構築を目指しており、一緒に活動する店舗を支援しています。

近年、プラスチック問題が世界規模で深刻化しており、焼却過程での大量の二酸化炭素の放出はもちろんのこと、マイクロプラスチックなどに起因する海洋汚染問題が特に問題視されています。

このような昨今の事情と昨年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」及び群馬県「5つのゼロ宣言」を鑑み、今年度は本協議会でも「プラスチックはえらんで、減らして、リサイクル」をスローガンとし、プラスチック問題に対して取り組みます。

また、新型コロナウイルスの影響で長らく中止していましたが、店頭啓発活動について今年度から再開します。概要については以下のとおりです。

群馬県環境アドバイザーの皆様の積極的な参加に、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和5年度環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会店頭啓発活動 概要	
実施月	11月、12月及び2月（計3回）
実施場所	12市及び吉岡町、大泉町の店舗 並びに市役所前
実施内容	店頭での啓発物品の配布や呼びかけ
実施時間	1時間程度

※実施店舗等の詳細については後日改めてご連絡いたします。



(R1 カスミ大泉店)



(R1 アピタ前橋店)



(R1 ヤオコー桐生相生店)

### ※群馬県ホームページより

#### ●環境にやさしい買い物スタイル

<https://www.pref.gunma.jp/page/6555.html>

#### ●2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』

<https://www.pref.gunma.jp/page/6725.html>

# 群馬県環境アドバイザー連絡協議会の活動について

12 期代表 西村豊

群馬県環境アドバイザー連絡協議会は会則で「本会は、群馬県環境アドバイザー相互の連携を図り、群馬県環境アドバイザー事業実施要綱にそった活動をするを目的とする。」となっています。この要綱に明記された活動内容は以下の通りです。

## I. 環境アドバイザーの活動（群馬県環境アドバイザー事業実施要綱から抜粋）

1. 環境情報の普及や環境保全意識高揚のための啓発活動を行う。
2. 環境保全に関する市民団体の新たな創設や既存団体への協力。
3. 個々独自に活動している市民団体のパイプ役として、市町村と連携を取りながら、実践活動の拡大及び新たな活動の実践推進を図る。
4. 地域リーダーとしての資質向上のための研さんに努める。

現在、約 360 人のアドバイザーが登録されていますが、どのように活動を始めれば良いか分からない方もいらっしゃると思います。連絡協議会には、部会と各地で地区会がありますので積極的に参加して活動を活性化させていきましょう。

## II. 部会等の活性化について

群馬県は 2050 年に向けた「ぐんま 5 つのゼロ」を宣言しました。この中で、宣言 2 の温室効果ガス排出量「ゼロ」、宣言 4 のプラスチックごみ「ゼロ」、宣言 5 の食品ロス「ゼロ」は環境アドバイザーが取り組みやすい項目で、これらの目標に向け、部会での活動を活性化しましょう。また部会は県央で開催されることが多く、遠方の方は参加しにくくなっています。一部の部会では実施していますがオンラインで参加できる事の検討も必要と考えています。

## III. 地域の活性化について

地域での活動において、地元の行政との連携が非常に重要です。環境アドバイザーは県内各地に在住しており、地元の市町村や住民と連携し、地域の環境活動を促進しましょう。同時に、環境アドバイザーの役割は県民にアドバイスすることも重要です。身近な人々に対して、小さなことからでも環境に関するアドバイスを行い、地域全体の環境保全に貢献しましょう。

今年度は群馬県環境にやさしい買い物スタイル普及の店頭啓発活動も実施されます。これは地域と連携出来る良い機会となりますので、ぜひ参加をして頂きたいと思えます。

皆さんと一緒に群馬県の環境を守り、持続可能な未来を築いていきましょう。

## 赤城山地熱試掘現場見学会 報告

地熱エネルギーを考える会 代表 清水明（温暖化・エネルギー部会）

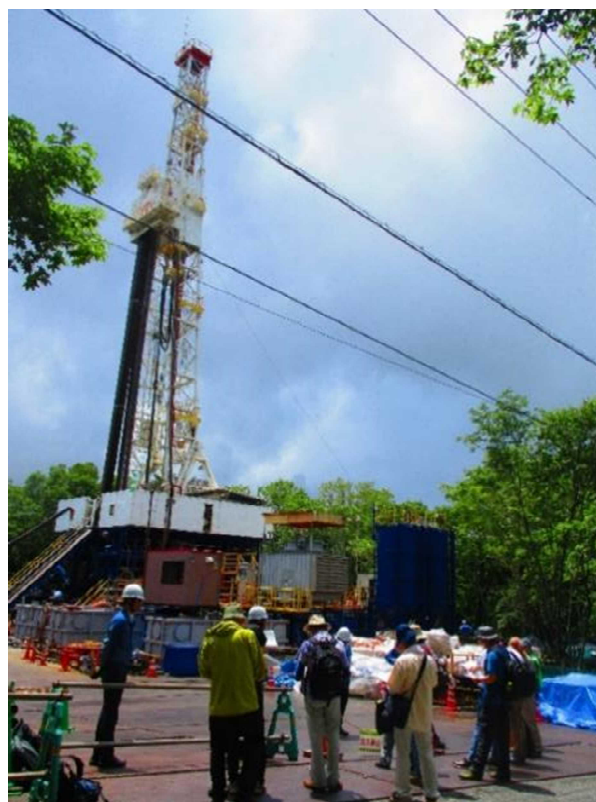
赤城山小沼地域（おとぎの森周辺）では、群馬県企業局が、25年前（1998年）1,000m 試掘したとき、泉温 164℃の熱水を確認している。このため、東京電力が中心となり、2019年度から地元関係者、自治体と協議を開始し、2022年10月あかぎやま地熱協議会を発足させ、赤城山の自然環境、水資源や歴史などを守りながら地熱可能性調査を進めている。

地熱発電は、調査合意、文献調査等約3年、掘削調査約4年、環境アセス約2年、建設約2年と、10年の期間が必要であり、赤城山の場合、掘削調査の1年目である。

今回、掘削槽（53m）が建ち、6月中旬から試掘が行われているので、環境アドバイザー・温暖化エネルギー部会11名で、7月20日、現地を訪れ、進捗状況等について、東京電力担当者の方から、詳しい説明を頂いた。

6月29日北海道の蘭越町では、地下200m掘削時に蒸気が噴出した。赤城山の場合、7月19日現在で、深度352mである。一般的には、深度600mを超えたときに、蒸気噴出防止の対策を行う。試掘は、垂直に掘削するのがベストだが、地形的な関係で、本来の土地から西に約1,300mのところ槽を建てて、斜めに掘削長約2,700m、垂直深度2,300mで行っている。10月下旬まで、掘削調査を行う予定である。想定している地熱資源での発電容量は、15,000kwである。因みに、2019年に稼働した岩手県松尾八幡平地熱発電所は7,000kwである。

温室効果ガスの増加による地球温暖化が急速に進みつつある中で、地熱発電は再生可能エネルギーであり、且つ、出力が安定した発電が可能である。赤城山の豊かな自然と共生した、赤城山地熱発電の進捗状況を、これからも注視していきたい。



（写真提供 六本木）

## 自然環境部会の課題について

自然環境部会 田中和夫

9月現在で140名強の登録者がいますが、「例会」や「高山村森林整備」の参加者が非常に少なく危機感を持っています。他に魅力的な行事が無いのは会長である私の責任でもありますが。

「高山村森林整備」は自然環境部会のメンバーが「一体となって活動できる場」を作ろうというきっかけで始めた事業で、地元の「高山村本宿殖産組合」の管理する「共有林」の整備で軽作業を行ってきました。年に5～6回作業してきた効果で脇を通る県道から見てもきれいな「林」が見られるようになりました。

しかしながらどこの団体にも共通課題である高齢化により参加者が減り、特に中心的なメンバーとして活動してきた人が健康的な理由で参加できなくなり参加者が激減して継続の危機に瀕しています。自然環境部会のメンバー以外の方にも広く参加を呼び掛けたいと思います。

前回9月10日（日）の作業中に刈払機が石を撥ね駐車してあった車の窓ガラスが破損するという事故がありましたが、車が原因の事故ではないという事で車輛保険も適用できず対処に苦慮しております。これが「対人事故」であれば大事でした。

ボランティア活動中の事故に対して何らかの補償ができないものか、県に対しても対策を検討していただきたいと考えております。なお、個人的な理由により自然環境部会長の職を辞する意思を申し添えます。

## ごみ収集の有料化

ごみ部会 山田一朗

ごみ収集の有料化については、廃棄物の減量及び適正処理に関する基本方針に則り、様々な取り組みが行われています。全国的に見て家庭ごみの有料化を実施している自治体の割合は、約60%となっています。

有料化のメリットとしては、①家庭ごみの排出量を削減できる、②資源物のリサイクルが推進される、③焼却場や処分場の負担を減らし施設の延命化をはかれる、という点が挙げられます。一方、有料化のデメリットとしては、①家計の金銭的負担が増加する、②不法投棄や不適正排出が増加し、その対策が必要となる、③指定袋に関わる事務及び諸経費が発生する、という問題があります。

具体的な事例として、北海道登別市では2000年より3Rの推進とともに有料化を実施、全体で36%のごみが削減されました。名古屋市では2000年から2年間でごみの量を23%減らし、埋め立て量をほぼ半減させました。名古屋市ではごみ収集の有料化はせず、ごみ非常事態宣言を出し、循環型社会を目指すために住民を巻き込んで3Rを推進したようです。他にも横浜市や鎌倉市や気仙沼市などは、有料化ではなく3Rを推進する方法でごみ減量の成果を出しています。群馬県では過去の前橋市長選挙において、ごみ収集有料化を掲げた候補が落選したため、前橋市では有料化の実施に至りませんでした。このように具体的な取り組みは地域により異なり、有料化による影響も地域や住民の意識、行政の対応などにより変わります。

3Rを推進しごみを減量すると言う地域住民の合意を形成していくことが、ごみの有料化にとっても前提となるのではないのでしょうか。

# ラジオ番組「みんなでSDGs会議～環境編～」を放送します

## ((株)エフエム群馬とタイアップした特別番組)

群馬県 環境森林部  
環境政策課 環境政策係

群馬県では、未来の子どもたちのために、私たちができることを考え、環境問題の課題解決につながる行動変容を促進するための特別番組を **10月31日(火曜日)** に放送します。

番組では、環境問題に関する様々な取り組みや具体的な行動について、専門家の話や実際の取組事例をお伝えします。また、リスナーの皆様からのメッセージや質問も大募集します。あなたの声が番組に反映されるチャンスです。

一緒にできることはたくさんあります。

私たちの未来を守るための第一歩は、今ここから始めることです。是非、御家族揃ってお聞きいただき、持続可能な未来の一步を踏み出しましょう。

ラジオの前のあなたと考える1DAY特別番組

# みんなで SDGs会議

環境編

議長  
内藤 聡



雑務  
富所 哲平  
(フナコトシンペイ)



**10/31** (火)  
ON AIR  
10:00-16:50

提供：群馬県

## ■ 概要

番組名：特別番組「みんなでSDGs会議～環境編～」

放送日時：10月31日(火) 10:00-16:50

出演：内藤聡、富所哲平 他

スケジュール

10:00-11:00 WAI WAI Groovin

MC/内藤聡

12:00-15:55 特別番組

MC/内藤聡&富所哲平

16:00-16:50 POTLUCK

MC/揚妻由理子アナウンサー

※但し 12:49-13:30、15:00-15:15 は別番組  
となります。また、ニュース、生活情報等の  
ニュースが途中セットされます。

出演



内藤聡 氏



富所哲平 氏



揚妻由璃子 氏

(FM GUNMA アナウンサー)

## 9月3日開催温暖化・エネルギー部会「ゲームから仲間づくりへ」事業感想

太田市 遠藤功

新型コロナ禍もどうにか克服されつつあり、一時的に控えられていた環境アドバイザーの活動も徐々に復活しつつあることは誠に喜ばしいことと思います。今回温暖化・エネルギー部会の一員として地域環境学習事業にスタッフとして参加する機会を得ました。しかし実質は催しの意義に賛同して参加された方々と同等かそれ以上に新たな知識を得、活動の手法を学び実践に活かすための原動力を頂戴したような気がいたしました。

午前「脱炭素まちづくりカードゲーム」は、専門的知見に基づいて構成された教育・啓発プログラムでしたが、ゲーム感覚で地球温暖化の実情を理解するとともに、属しているコミュニティでの連携や協力がキーであることを身をもって実感致しました。特に資金が不足する現実是最も深刻な問題ですが、効果的な活動は注入資金以上に金を生み出し、さらにはその結果としてCO2を削減しかつ「コミュニティ力」も向上させる効用があることを学びました。

今回ゲームの中で用いられている活動や施策は既に公知のものがほとんどでしたが、今でも技術の発展に少しでも貢献したいと思っている者としては、より一層効率的な方策を志向する必要性も痛感させられました。それと同時にこれらの技術を仲間に広め実践で効果を上げるコミュニティづくりも重要であることを、KJ法（午後の前川講師の基礎講座で紹介された手法）を用いた身近な環境問題を討議する上で実感できました。KJ法の効用は参画した誰でもが公平に意見を述べる機会が与えられ、さらにそれらの意見が皆で共有され尊重される中で、参画意識や仲間としての認識が醸成され、グループの力を高めその活動を支える原動力となることも実感できました。

Forward to 1985 energy lifeの内容は、目から鱗の感じでした。家庭での消費エネルギーを半分にするためには1985当時の生活に戻るだけでいいとのご指摘は卓見でした。つまり現在のエネルギー消費量を半減する生活レベルに戻るとい

うことは、戦後間もないころの生活レベルと想像しておりましたが、実際は大量消費に明け暮れたバブル期当初の1985年であるとは驚きでした。これなら手が届きそうで、俄然やる気が湧いてきました。その着想もユニークで、1985年頃の家庭で消費していた電力と原発の総発電量とがほぼ等しく、これの半減を継続することで原子力依存から脱却しようとする試みは賛同できました。

1985年アクションの具体的な目標は2030年までに家庭での消費エネルギー（電気・ガス・灯油の合計）を半減することです。その一環として展開されている「うちのエコ診断」はプチ（小さな）省エネプログラムを個人的に実践している者にとっては大いに興味をそそられるものですので、診断士試験にも挑戦してみるつもりです。今回のセミナーは今まで求めていた本格的な活動の入り口にするような構想が得られた有意義なものでした。今まで蓄積してきた技術的背景やこのように新たな知識を基に省エネを実践して地球の温暖化遅延に少しでも貢献できればと思っております。



## みどり市で「カッコソウ」の保全活動を実施

太田市 西村豊

「カッコソウ」は、日本でも桐生市とみどり市の鳴神山周辺にのみに自生するサクラソウ科の植物です。近年、生育環境の変化により、その自生地が激減し、平成 24 年には、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種に指定されました。今回「カッコソウ」保全への理解を深め保護する目的で、群馬県環境アドバイザーと地元の方で、みどり市の自生地で活動を行いました。

自生場所は山の中の急斜面で、活動している方も高齢化し活動が継続できなくなる恐れがあることから環境アドバイザーの有志が協力しました。これからも貴重なカッコソウを残すために活動を続けていきますので皆様のご協力をお待ちしています。

参加者の感想（伊勢崎市 光山達紀）

環境アドバイザーや地元の方と協力し、希少野生動植物種の保護活動に初参加しました。カッコソウの保全活動（株分け・根伏せ等）は普段中々体験できない作業でした。生育地は予想外の急な山の斜面での作業となり、予想を超える自然環境での活動で、たどり着くだけでも容易ではありませんでした。参加者一人ひとりの協力と貢献が重要であることを痛感しました。

また、この地を定期的に管理している方々もかなりの労力を要する状況であることが分かりました。その地に自生する植物たちの営みと、その環境の厳しさを目の当たりにすることで、地球環境への配慮がいかに重要かを再認識しました。

村田さんを始めとして地元の方々、および知見をお持ちの環境アドバイザーの方々にお話を伺った結果、今後の課題として生育地での保護活動はもちろん、その環境を整えることで植物たちの自然な繁茂を促進する環境づくりが不可欠なことが明らかになりました。

また、継続的な保護活動に関わる人手やボランティアの確保が重要であり、次世代に環境保護活動を継承していくための施策が急務であると感じました。カッコソウ観察後は地元の方による説明もあり、充実した観察会となり、私自身もこの活動を通じてさらに環境活動に貢献したいと感じました。今度はカッコソウが開花する頃は是非この目で見てみたいです。



### GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは3月、6月、9月、12月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp